

ドライバー寿命の延伸と安全

SAS対策で守る

睡眠時無呼吸症候群（SAS）患者による事故発生率は健常者よりも高い。だが、「治療が適切に行われていれば運転業務は可能」だと、NPO法人ヘルスケアネットワーク副理事長の作本貞子氏は言う。昨年7月、10年ぶりに自動車運送事業者におけるSAS対策マニュアルが改定された。SAS治療継続の有用性をさらに周知していく必要があるからだ。SAS対策で事故防止とドライバー寿命の延伸は可能なのだろうか。

SASとは睡眠時に気道が塞がって呼吸が止まったり、止まらなく、見過ごされるまじけたりする病気で、大きないびきが代表的な症状だ。京・大手町で運送事は「SASと特に



SAS対策について解説した
作本氏

関係があるのが高血圧。脳・心臓疾患に起因する突然死や健康起因事故を誘発するその背景にはSASがある。脳も酸欠状態になるので認知症やうつ病にもつながる」とし、「認知症になると言われて慌ててSASの治療を開始した

ドライバーもいる」と述べた。

寿命と事故防止

SAS患者の4割はハイリスク者といわれており、肥満・高血圧・脂質異常・高血糖の所見を3〜4項目併せ持っている。4項目持っている人を死の四重奏と呼び、死にずる確率が三十数倍に跳ね上がるという。これを防ぐため、ドライバー

寿命の延伸と事故防止のためにSAS対策が必要となる。SAS検査を行うことは、本人も意識していない、会社も気付いていない潜在的なハイリスク者の可視化につながるが、国交省の調査によると、検査の必要性を感じている自動車運送事業者は9割

「不安解消で健康に」と話す木南社長



う」を療中の者から「よくテーマに寝られるようになった」との声もあった。講演した木南社長は、「会社での健康診断で不安解消に社年度をつなげた」として、もともとドライバーを3グループに分けてSAS検査を計画。未治療だと運転手として仕事を継続できない可能性があることを伝えるながら取り組みをスタートしたという。

治療で運転可能

SASの放置は健康起因事故の主原因

検査で健康管理

健康起因による事故を未然に防ぐ対策の一環として、2024年度から3年ごとのSAS検査を開始した新宮運送（木南晋一社長、兵庫県たつの市）。同セミナーで「健康診断プラスアルファで自身と向き合



CPAPイメージ

になるため、「早期発見・早期治療」が重要となる。作本氏は「SASと診断されてもCPAPなどの治療が適切に行われていれば運転業務は可能」としたうえで、「睡眠時間が少なくて睡眠の質が良くない人は、睡眠時間をしっかりとっている人に比べて死亡リスクが約3倍。SAS治療で質の良い睡眠をとることで事故防止とドライバー寿命の延伸を可能にする」とまとめた。（三村秀寿）